

10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (四国)		通信会社（技術）	・年度末の引っ越しシーズンに入るため、販売量に大きな動きがあるだろう。
		スーパー（店長）	・前年末より実施している、ポイントセール等の来客数対策の効果が現れてきている。
		コンビニ（店長）	・今後しばらくは近隣での工事が続き、来客が増えるだろう。
		衣料品専門店（経営者）	・今年10月からの消費税の引上げが要因となり、単価の高い物は割と動きは良いが、景気が良いのも10月までだろう。
		衣料品専門店（経営者）	・2月は1年で最も売行きが悪い月だが、前年も悪いため少々の売上増加で終わるだろう。気温が上昇すれば、初春物がそこそこ動くため、売上は気温の上昇待ちとなるだろう。
		家電量販店（副店長）	・消費税の引上げ前の需要と10年前のエコポイント商品の買換え需要がある。
		乗用車販売業（営業担当）	・2～3月は決算イベントが控えているため、好調に推移する。
		乗用車販売店（従業員）	・決算期に入り、受注・商品販売が共に良くなる。
		乗用車販売店（従業員）	・2月は一番大きなイベントがあり販売台数も上がる。
		乗用車販売店（役員）	・消費税の引上げ前の駆け込み需要が多少はあるだろう。
		住関連専門店（経営者）	・近辺に分譲住宅がかなり建っているため、関連商品の需要があるだろう。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・春になると、花見などの行楽シーズンとなるため、少しは売上が増加するだろう。
		観光型旅館（経営者）	・台湾の直行便が7月から開通することが決まり、良くなる。また、四国内の競争の中で、新幹線問題等もあるが、松山が四国の中心という感じではなくなっている。これから松山が四国にとって大事な一流都市となるよう、外国人も増えるような戦略をとっている。
		旅行代理店（営業担当）	・春休み、そしてゴールデンウィークの状況が非常に良く、客が動き出している。
		タクシー運転手	・3～4月は、異動及び新入学がある月で、人の動きが多い。
		タクシー運転手	・春が来て歓送迎会が始まる。お遍路さんも少しずつ増え、3～4月は少しずつ良くなっていく。
		通信会社（営業部長）	・来月下旬から4月まで新生活シーズンの需要期で販売増となるだろう。
		美容室（経営者）	・3月に卒業、入学シーズンになるので動きが良くなる。
		美容室（経営者）	・新年度を迎える時期なので忙しくなる。
		商店街（代表者）	・新規ドラッグストアのオープンも控え、いろいろな部分で店舗の新陳代謝が加速している。また飲食を中心に、新しい魅力的な店も出ているが、そこそこのレベルで推移していきだろう。
		商店街（事務局長）	・街はインバウンド効果もあり、通行量も多くにぎわいはあるが、実売が伴っていない。また、前年末から高級宝飾品の動きに明らかな陰りが見え始めている。株値の低迷や経済の先行き不安から、今のところ堅調な高級衣料、雑貨、化粧品等の購買に飛び火しないことを祈っている。
		一般小売店〔文具店〕（経営者）	・景気が良くなる要因が見当たらない。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	・繁華街の中心部だけでも、もう少し人通りが欲しいが、目的のある人しか通っていないため、消費者が増えるとは考えにくい。歩行者の年齢層がゆっくり上がってきている。
	一般小売店〔乾物〕（店員）	・特になし。	
	百貨店（営業統括担当）	・冬物のセールから春物へと客の関心はシフトするが、慎重な買い方は変わらないだろう。	
	百貨店（販売促進）	・春節に向けてインバウンド施策の強化が必要である。	
	スーパー（店長）	・特に景気が良くなる兆候、傾向はない。	
	スーパー（企画担当）	・気候が安定し、青果物などが安定してきたので生鮮品の価格は安定するだろう。加工品については値上げがあるため、買い回りが引き続き発生する。	

	コンビニ（総務）	・今秋の消費税の引上げを控えているため、今後も状況は変わらない。	
	コンビニ（商品担当）	・外的要因も大きな変化はなく、中長期天候予報でも平年とほぼ変わらない予報なので大きく変わる事はないだろう。	
	衣料品専門店（経営者）	・現状、特に悪くなる要素がない。	
	衣料品専門店（営業責任者）	・セールの割引率を大きくしてでも在庫を処分しなければならないため、採算は悪化する懸念がある。春先の商品の動き出し次第でもあるが、景気が好転することはないだろう。	
	乗用車販売店（従業員）	・ガソリン価格も今のところは安定しており、変わらないだろう。	
	その他小売〔ショッピングセンター〕（副支配人）	・10連休があり、旅行業界等では売上を期待できるが、消費する金額が増えないと小売業界は減少するしかなく、小売業界は余り期待できない。	
	通信会社（支店長）	・当面の変動要素は、見当たらない。	
	競輪競馬（マネージャー）	・米国を始めとする国際情勢の不安定により、株価は下落傾向にあり企業業績の向上は期待感が薄い。それに伴い賃金の水準は横ばい推移が予想され、消費意欲の伸び悩みが予想される。	
	設計事務所（所長）	・相変わらず、企業の設備投資や事務所ビルの建て替え等の話が幾つかあり、特に東予地方でそういう話が多くある。	
	商店街（代表者）	・金利政策も限界で、現政権の安定性も揺らいできた。特に我々地方都市は数か月先の予測さえ難しく状況で、ポジティブな予測は意味をなさない。	
	商店街（代表者）	・消費税の引上げが近づいてきており、最近は客動向が予測しづらく消費者の金の使い方が堅実になっている。	
	一般小売店〔酒〕（販売担当）	・家庭でし好品にかけの金が減少しており、中でも価格競争の激しい酒類業界の小売店は厳しいものがある。	
	スーパー（財務担当）	・節約志向はますます強まり、業態を超えた競争もますます激化する。	
	都市型ホテル（経営者）	・13府県ふっこう周遊割があっても現状維持の状況であり、これが期限切れになると客数は減ってくるだろう。バンケットについても、レストランについても、従来どおりで、余り景況感がない。	
	×	コンビニ（店長）	・そろそろ、下げ止まりしてほしいところであるが改善の気配なく、また地元の景気状況では、改善の期待は薄い。
企業 動向 関連  (四国)		*	*
		木材木製品製造業（営業部長）	・消費税の引上げの影響は思ったより少ないが、若干、受注量は増加するだろう。
		化学工業（所長）	・今年は改元に合わせてゴールデンウィークが10連休となり、それに伴って前倒しの受注が増加していく。さらに、消費税の引上げによる仮需要の発生もあり、秋頃までは日用品、衣料品分野が伸びる。なお、それ以降については反動が心配である。
		電気機械器具製造業（経営者）	・景気は今からはしっかりしてくるだろう。今、安定した受注が入っている。
		金融業（副支店長）	・消費税の引上げ前の駆け込み需要で、一時的に景気が好転するだろう。
		繊維工業（経営者）	・東京オリンピックを控えた今がこの状況であり、これから消費税の引上げ、東京オリンピック後の落ち込みを考えると、将来的には厳しい状況にある。景気浮揚が考えにくい状況では、我々は魅力的な商品、サービスを生み出し、市場に提供し続けるしかない。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・今のような景気の傾向はある程度続くだろう。すぐには良くならないので、経費の切り詰めを考えなくてはならない。
		鉄鋼業（総務部長）	・主力造船関連は順調に推移するだろう。その他は余り変化はない。
		電気機械器具製造業（経理）	・得意先から受けている注文及び先行き情報に関し、おおむね安定的に推移している。市場においても、変動を予想させるトピックは見られない。
		建設業（経営者）	・年度末から年度当初にかけては、手持ち仕事量が減少し、売上が増加する時期で、このまま変わらない状態が続く。補正予算次第では上振れの可能性があるが、現時点では、不明である。
		建設業（経営者）	・これから2～3か月、引き続き受注できそうな物件が非常に少ない。

	輸送業（支店長）	・景気の変動が国際的な政治経済の動向に連動しやすくなってきており、米中間の動向に対する懸念が多く報道されるなか、国際経済や国内経済の動きに影を落としている。	
	通信業（総務担当）	・景気変動する要素が見つからない。	
	通信業（企画・売上管理）	・国内の自動車メーカーや、消費税の引上げを見据えた戸建て住宅系のCM出稿が年度内に増える可能性があるが、全業種で考えた場合に今より良くなるとはいえない。	
	広告代理店（経営者）	・既存得意先の新規出店予定がある一方、小売流通関係の競争は厳しく、一部の得意先から新年度予算の削減の話がある。	
	食料品製造業（経営者）	・原材料仕入価格、資材単価、物流費が上昇してきているが、小売価格が上がらない。競合との価格競争が激しいなか、販売価格に転嫁できず利益が圧迫されるだろう。	
	輸送業（経営者）	・簡易課税制度や人手不足への対応策が業界的に上手くできない。	
	輸送業（営業）	・4月には調味料、5月には飲料水の値上げが発表されており、消費期限の長いものについては値上げ前の駆け込み需要を見込んだ物流の増加が予想されることから、輸配送に関わる車両の不足が危惧される。また、4月末～5月は10連休になるが、その間の物流対策について、荷主、物流事業者共にいまだ方向性が定まっておらず、車両不足による物流の停滞や混乱が危惧される。	
	公認会計士	・経営者は10月からの消費税の引上げを非常に気にしている。また、豪雨災害の影響がまだかなり広がっており、景気の先行きについて非常に不安を覚えている人が増えているため、若干、景気は落ち込むだろう。	
	x	-	
雇用 関連 (四国)		-	
	人材派遣会社（営業）	・求人数は更に増加し、パートや派遣という有期雇用ではなく、直接雇用が増えていく傾向にある。年度の替わり目ということで、労働者の入替わり等、消費者の購買ニーズが高まり景氣的にやや良くなる。	
	人材派遣会社（営業担当）	・求人数が増えてきており、就労者数や派遣登録者の就労率が増えている。また賃金も増加している。	
	求人情報誌製作会社（従業員）	・異動時期に入り、求人数が増加するだろう。	
	求人情報誌（営業）	・引き続きの求人難にこれで行った解決策がないまま進むだろう。各企業の自助努力によってしばらくはしのぐが、中途採用、新卒採用とも引き続き厳しいことが予想されるため、人材不足が続く。	
	新聞社 [ 求人広告 ] ( 担当者 )	・建設、住宅関連は景気が良いが、それ以外は厳しい。	
	職業安定所（職員）	・新規求人数は増加傾向になり、有効求人倍率は依然高い水準で推移しているが、特に状況が変化する要素が見当たらない。	
	職業安定所（求人開発）	・最近増えていた企業の合併についても、比較的、小規模な案件が少し出てくる程度に落ち着いたため、前月よりは、若干良くなる。	
	民間職業紹介機関（所長）	・介護施設の外国人実習生の採用については、施設により、温度差があり、EPAを利用して、積極的に受入れている施設がある一方、外国人受入れに消極的な施設も多くある。言葉の壁、実習期間を考慮し、受入れを最初から考えていない施設もある。	
	学校 [ 大学 ] ( 就職担当 )	・4年生の就職活動については、4月から続いてきた内定者数の伸びが止まっている。これは企業で働くことに不向きな学生が残っているためであり、景気動向との関連性は低い。求人は相変わらず多いものの、適する人材は今シーズン既におおむね枯渇している。	
	人材派遣会社（営業担当）	・製造業から職を失い人材が流出してくるだろう。	
	x	-	-